Economic Indicators

発表日：2023 年 12 月 7 日（木）

景気動向指数（2023 年 10 月）

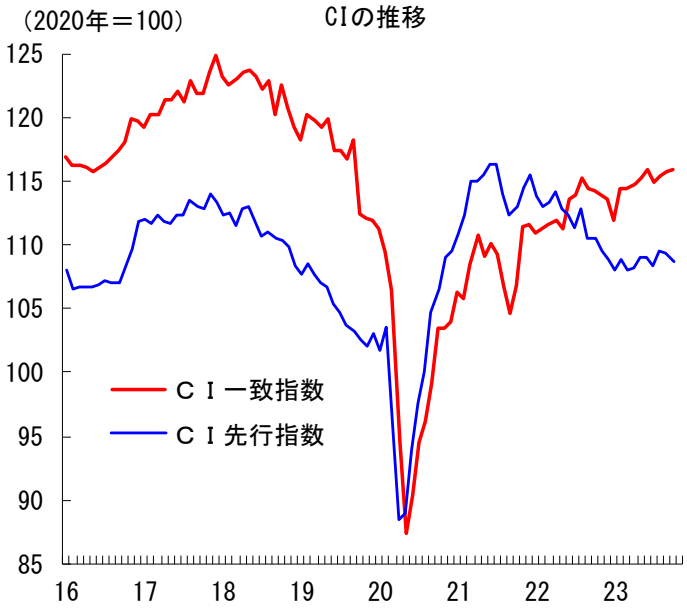
～基調判断は「改善」維持も、回復感には欠ける～

第一生命経済研究所
シニアエグゼクティブエコノミスト　新家　義貴
（TEL：050-5474-7490）

改善ペースは緩やか

内閣府から公表された 2023 年 10 月の景気動向指数では、ＣＩ一致指数が前月差＋0.2 ポイントとなった。小幅ながら３カ月連続の上昇である。10 月の内訳では、生産財出荷指数や小売業販売額、輸出数量指数などがマイナス寄与の一方、投資財出荷指数や有効求人倍率などが押し上げ要因となり、ＣＩ全体では小幅プラスとなっている。

今回は、法人企業統計の結果等が反映されたことで、過去の値が改定されている。これまでは、昨年秋以降、均してみれば概ね一進一退の横ばい圏での推移という形だったが、改定後は足元で緩やかに改善という姿に変わっている。この点は好材料ではあるが、改定後も改善ペースは鈍いものにとどまっており、回復感には欠けている。景気に強気になるまでには至らない。



（出所）内閣府「景気動向指数」

先行きも回復感に欠ける動きが継続する公算大

ＣＩ一致指数の基調判断は７ヶ月連続で「改善」となった。ＣＩ一致指数の３ヶ月移動平均前月差も＋0.34 とプラスに転じており、「足踏み」への下方修正にはまだ距離がある。当面、基調判断は「改善」が続くだろう。

もっとも、前述のとおり改善ペースは鈍く、楽観的になることはできない。先行きについても、ＣＩ一致指数は伸び悩む可能性が高いだろう。ＣＩ一致指数と関連が深い鉱工業指数をみると、11 月の製造工業生産予測指数で前月比▲0.3%、予測指数の上振れバイアスを除去した経済産業省による補正値では前月比▲1.9%と低下が見込まれている。11 月のＣＩ一致指数は低下となる可能性が高い。その先についても、ＩＴ関連財の在庫調整が進捗しているといった好材料はあるものの、海外経済の減速が先行き見込まれるなか、輸出は伸び悩むことが予想され、生産活動に力強さが出てくる展開は見込み難い。物価高の悪影響もあって個人消費に力強さが出ないことも懸念材料だ。ＣＩ一致指数も当面、回復感に欠ける動きが続く可能性が高い。

本資料は情報提供を目的として作成されたものであり、投資勧誘を目的としたものではありません。作成時点で、第一生命経済研究所が信ずるに足ると判断した情報に基づき作成していますが、その正確性、完全性に対する責任は負いません。見通しは予告なく変更されることがあります。また、記載された内容は、第一生命保険ないしはその関連会社の投資方針と常に整合的であるとは限りません。